

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2362 号

Early Fistulography Can Predict Whether Biochemical Leakage Develops to Clinically Relevant Postoperative Pancreatic Fistula

術後早期の瘻孔造影による化学的膵液漏から臨床的膵液漏への増悪予想

武田 良祝 (たけだ よしのり)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、膵切除術後の早期瘻孔造影所見により臨床的膵液漏の発生が予測可能であることを初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。膵液漏は化学的膵液漏から臨床的膵液漏に増悪すると致死的になるため予測因子が必要とされていたが、従来の報告は臨床的な有用性に乏しかった。そのため、本邦においては化学的膵液漏を発症した患者は長期入院となることが一般的であり、問題視されていた。一方、早期退院が主流の海外施設においては、退院後に臨床的膵液漏を発症し再入院をきたすことが多く問題となっていた。

本研究では、2013年から2015年に国内単施設において膵頭十二指腸切除または膵体尾部切除を受けた患者のうち、化学的膵液漏を発症した129例を対象とした。瘻孔造影検査の所見をSimple type (107例)とCavity type (22例)の2群に分類し、多変量解析の結果、Cavity typeは膵液漏の増悪の有意な予測因子として認められた。瘻孔造影検査は、CT検査に比べ被曝量が少ない非侵襲的検査であるとともに、ドレナージ中の患者においても増悪を予測できる感度の高い検査であり、臨床的価値が高い知見である。また、本研究の結果をもとに患者の治療計画を立てることで、本邦ならびに欧米が抱える膵液漏患者の術後管理における問題点を解決できる可能性があり、非常に有用な報告である。

よって、本論文は博士の学位を授与するに値するものと判定した。